

2018年（平成30年） 3月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/22~2/28のNYMEX・WTIIは、61.64~63.91ドルの狭い範囲で推移した。

3月1日は、前日のEIA週報で米国石油在庫が原油・製品とも増加するなど、米国の供給過剰懸念が広がり、3日続落、2週間振りの安値をつけた。ただ、午後からはドル安の進行に伴う割安感による買戻しもあり下げ幅は圧縮された。4月限の終値は前日比0.65ドル安の60.99ドルだった。

週末2日は、トランプ米大統領の鉄鋼・アルミへの輸入関税発動を受け、世界経済の先行き不安による売りが先行したが、午後からはドル安による買いや株価下げ止まりを好感した安値拾いの買いで4日振りに反発した。ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数800基（前週比1基増加）であった。4月限の終値は前日比0.26ドル高の61.25ドルだった。

週明け5日は、IEAが年報で、2023年まで石油需要が年率1.1%増加を予想するとともに、エクアドルのカルロスベレス・エネルギー相がベネズエラの生産状況悪化を指摘するなど、需給均衡への期待感から続伸した。4月限の終値は前週末比1.32ドル高の62.57ドルだった。

6日は、米国の増産懸念やOPECの減産観測など売り買いが交錯し方向感覚を欠く取引の中、わずかに値上がりした。4月限の終値は前日比0.03ドル高の62.60ドルだった。

7日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫増加が市場予想を下回ったものの、米国の保護貿易主義拡大懸念による世界経済の先行き不安、根強い米国の供給過剰感を背景に、反落した。4月限の終値は1.45ドル安の61.15ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週61.70~64.20ドルの範囲で推移した。3月1日61.50ドル、2日60.40ドル、5日61.20ドル、6日62.30ドル、7日は61.70ドルで推移した。

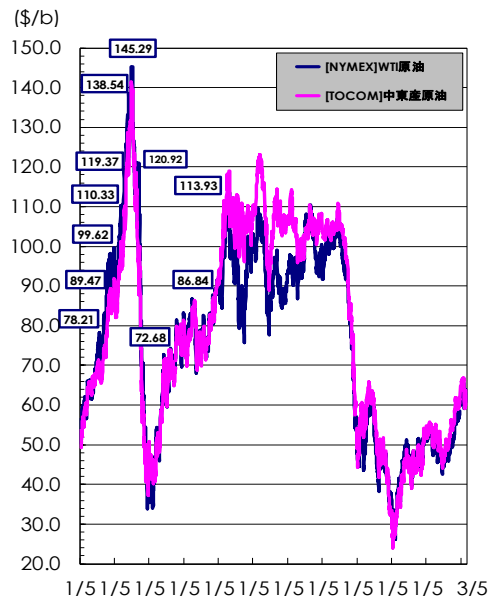
為替は、前週106.86~107.52円の範囲で推移した。3月1日106.73円、2日106.28円、5日105.55円、6日106.24円、7日は105.62円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、2月中旬の原油輸入平均CIF価格は、47,507円/klとなり、前旬を1,095円上回った。ドル建てでは69.24ドルで前旬比2.37ドル高。為替レートは1ドル/109.09円。

主要元売会社の3月第2週に適用する卸価格は、ガソリンが据え置きから1.0円の値下げ、軽油が据え置きから1.0円の値下げ、灯油が据え置きから1.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、3月5日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は同1円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は2週連続(18%ベース)の値下がりだった。この週(3月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリンは1.0円の値上げ、軽油は0.5~1.0円の値上げ、灯油は1.0円の値上げとなった。

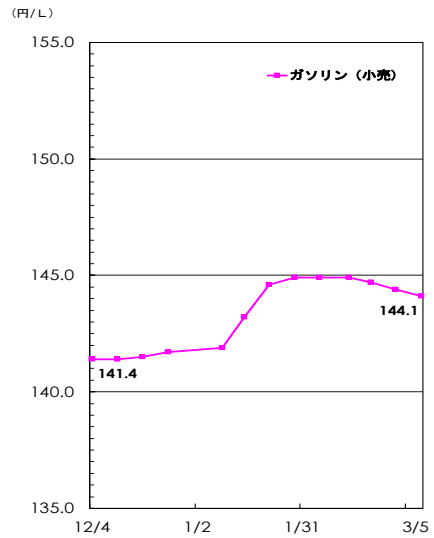
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/25 ~ 3/3	3,666 ▲ 23	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.6 ▲ 0.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/3	11,966 ▲ 233	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/5	61.22 ▼ -2.43	▲ 7.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/5	62.57 ▼ -1.34	▲ 9.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	69.24 ▲ 2.37	▲ 13.94
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	47,507 ▲ 1,095	▲ 8,052
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.09 ▲ 1.24	▲ 4.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/5	106.55 ▲ 1.37	▲ 8.23



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/25 ~ 3/3	1,033 ▼ -33	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	930 ▲ 21	▼ -	
	輸出	"	70 ▼ -77	▼ -	
	在庫	3/3	1,680 ▲ 33	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/27 ~ 3/5	58.5 ▲ 0.4	▲ 4.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/27 ~ 3/5	55.8 ➡ 0.0	▲ 2.6
		(TOCOM/中部)	3/5	56.0 ▼ -0.5	▲ 2.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/5	144.1 ▼ -0.3	▲ 12.1	

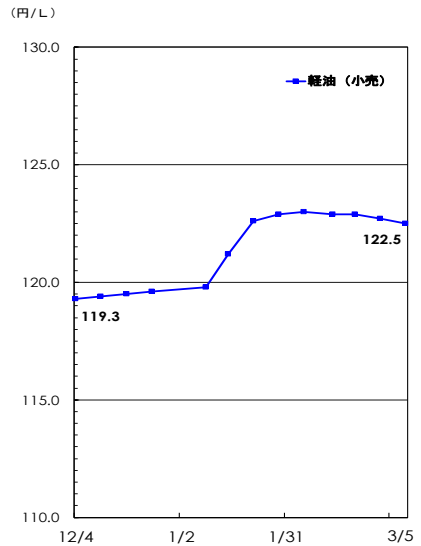
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

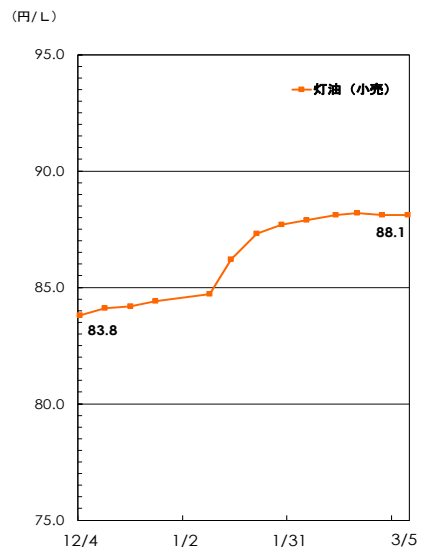
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/25 ~ 3/3	720 ▼ -87	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	637 ▼ -83	▼ -	
	輸出	"	7 ▼ -130	▼ -	
	在庫	3/3	1,268 ▲ 76	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/27 ~ 3/5	59.7 ▲ 0.3	▲ 8.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/27 ~ 3/5	62.0 ▲ 1.2	▲ 16.0
		(TOCOM/中部)	3/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/5	122.5 ▼ -0.2	▲ 11.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/25 ~ 3/3	528 ▲ 74	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	442 ▼ -67	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	3/3	1,286 ▲ 87	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/27 ~ 3/5	64.2 ▼ -0.3	▲ 13.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/27 ~ 3/5	60.9 ▼ -0.8	▲ 11.9
		(TOCOM/中部)	3/5	60.5 ▲ 0.5	▲ 12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/5	88.1 ➡ 0.0	▲ 10.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月7日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比240万バレル増加と市場予想(同270万バレル増)を下回る積み増しであったものの、先日のトランプ政権の鉄鋼・アルミへの関税賦課方針の表明による保護貿易の拡大懸念や世界経済の先行き不安による投資家のリスク回避姿勢、さらには、米国内の高水準生産の継続など根強い供給過剰感から、大幅反落した。4月限の終値は前日比1.45ドル安の61.15ドル、5月限の終値は前日比1.43ドル安の61.02ドルだった。

EIAによると、3月5日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.2セント値上がりの1ガロン2.560ドル(72.0円/ℓ)となっ

た。ディーゼルは前週比1.5セント値下がりの2.992ドル(56.3円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値上がり、ディーゼルは4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年2月25日～3月3日に休止したトッパー能力は12.0万バレル/日で、前週に対して横ばいであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は366.6万klと、前週に比べ2.3万kl増加。前年に対しては20.7万klの減少。トッパー稼働率は93.6%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては1.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.1%減、ジェット/7.4%増、灯油/16.2%増、軽油/10.8%減、A重油/11.2%減、C重油/14.3%減。今週のC重油の輸入は6.0万kl(前週比0.2万kl減)。軽油の輸出は0.7万kl(前週比13.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は93.0万kl(対前週2.3%増)と3週振りで前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、9週連続で100万klを下回った。ジェット11.5万kl(対前週399.8%増)、灯油44.2万kl

(対前週13.2%減)、軽油63.7万kl(対前週11.5%減)、A重油27.8万kl(対前週9.5%減)、C重油32.3万kl(対前週6.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (2/25 ~ 3/3)	前週 (2/18 ~ 2/24)	前週比	
ガソリン	930	909	▲ 21	(2%)
ジェット燃料	115	23	▲ 92	(400%)
灯油	442	509	▼ -67	(-13%)
軽油	637	720	▼ -83	(-12%)
A重油	278	307	▼ -29	(-9%)
C重油	323	304	▲ 19	(6%)
合計	2,725	2,772	▼ -47	(-2%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月3日時点の在庫は、ガソリン、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、すべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは168.0万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

灯油は128.6万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては5.5万kl少ない。

軽油は126.8万kl、前週差7.6万kl増。前年に対しては22.4万kl少ない。

A重油は66.7万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては9.4万kl少ない。

C重油は180.7万kl、前週差7.7万kl減。前年に対しては12.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/3)	前週 (2/24)	前週比	
ガソリン	1,680	1,647	▲ 33	(2%)
ジェット燃料	751	785	▼ -34	(-4%)
灯油	1,286	1,199	▲ 87	(7%)
軽油	1,268	1,192	▲ 76	(6%)
A重油	667	678	▼ -11	(-2%)
C重油	1,807	1,884	▼ -77	(-4%)
合計	7,459	7,385	▲ 74	(1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月27日から3月5日の原油価格は、前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、2月27日～3月5日までの間、ガソリン111～112円台で上昇後やや値下がり、軽油59円台でやや上昇後わずかに値下がり、灯油63～64円台で徐々に値下がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114～116円台

で大きく値下がり、軽油61～63円台で大きく値下がり、灯油67～72円台で急激に大きく値下がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～109円台で大きく値下がり、軽油62円台で横ばい、灯油59～62円台で大きく値下がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは据え置きから1.0円の値下げ、軽油は据え置きから1.0円の値下げ、灯油は据え置きから1.0円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上ガソリン・陸上と先物の軽油が値上がり、3種の灯油・海上のガソリンと軽油が値下がり、先物ガソリンが横ばいと大きく分かれた。

3月第2週(3月8日～3月14日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月27日～3月5日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.3円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが3.7円の値下がり、灯油は3.1円の値下がり、軽油は0.9円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが横ばい、灯油は0.8円の値下がり、軽油は1.2円の値上がりだった。原油価格は値下がりし、為替も円高で、原油コストは値下がりした。

3月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリンが据え置きから1.0円の値下げ、軽油が据え置きから1.0円の値下げ、灯油が据え置きから1.0円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (2/27 ~ 3/5)	前週 (2/20 ~ 2/26)	前週比
レギュラー	58.5	58.1	▲ 0.4
灯油	64.2	64.5	▼ -0.3
軽油	59.7	59.4	▲ 0.3

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値] [平均]	今週 (2/27 ~ 3/5)	前週 (2/20 ~ 2/26)	前週比
レギュラー	55.8	55.8	→ 0.0
灯油	60.9	61.7	▼ -0.8
軽油	62.0	60.8	▲ 1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/27～3/5実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.4	→ 0.0	▲ 0.2
灯油	▼ -0.3	▼ -0.8	▼ -0.5
軽油	▲ 0.3	▲ 1.2	▲ 0.8
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の144.1円、軽油は同0.2円安の122.5円、灯油は同横ばいの88.1円(18ℓベースでは同1円安の1585円)だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がり(18ℓベース)だった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは2県、横ばいは7都県、値下がり38道府県だった。全国最安値は徳島県の138.2円(同0.5円安)、次が埼玉県の139.8円(同0.4円安)、最高値は沖縄県の152.5円(同0.4円安)だった。最も値上がりしたのは、0.1円高の秋田県(142.8円)と鳥取県(142.4円)だった。最も値下がりしたのは、1.0円安の山形県(143.2円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、ガ

ソリンが1.0円の値上げ、軽油が0.5円～1.0円の値上げ、灯油が1.0円の値上げとなったが、3週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。次週(3月12日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり、灯油の小売価格は横ばいが予想される。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/5)	前週 (2/26)	前週比	直近高値
レギュラー	144.1	144.4	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	88.1	88.1	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	122.5	122.7	▼ -0.2	08/8/4 167.4

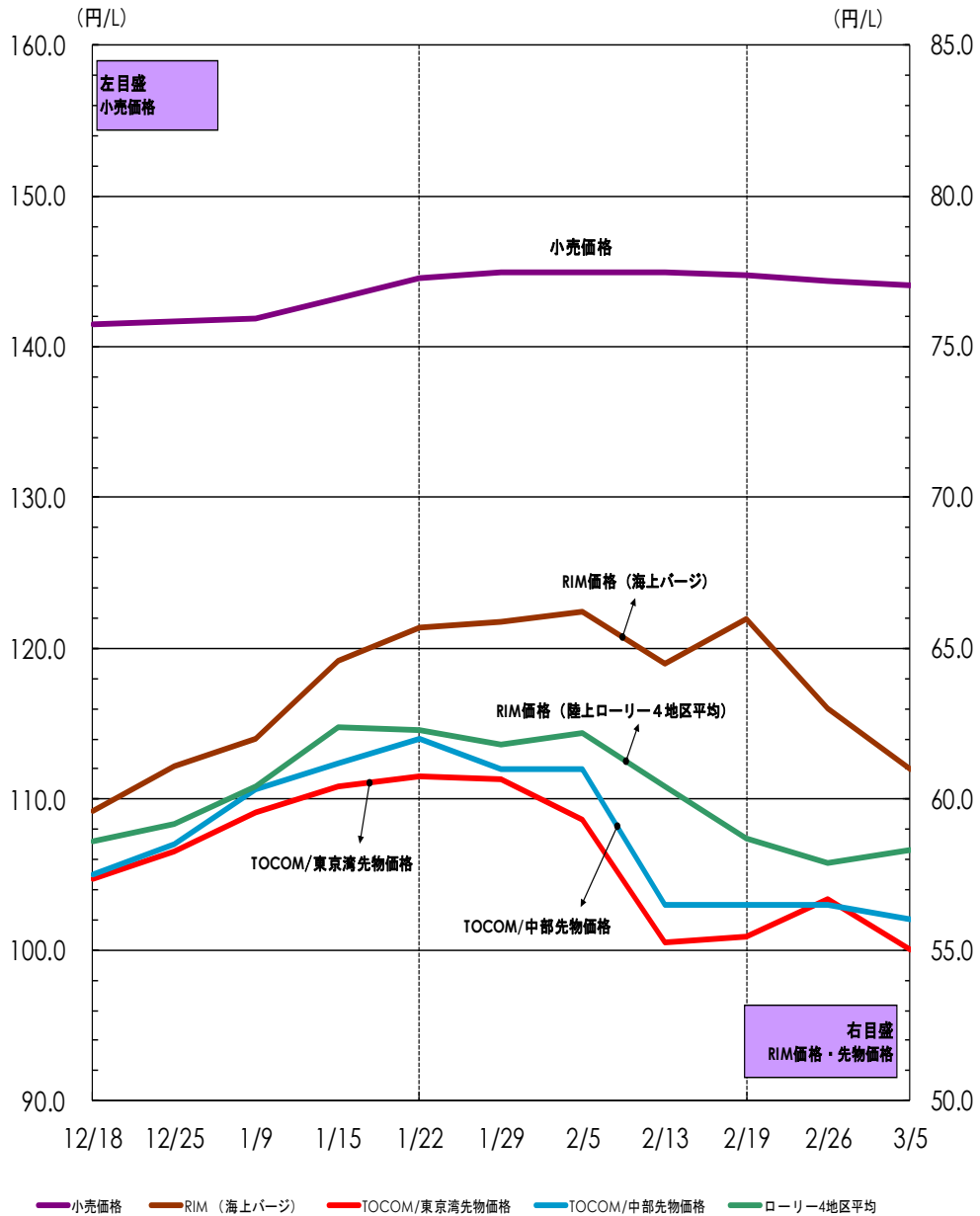
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/12/18 ~ 2018/3/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第47号)の公表は、3/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。